



保育園の菜園で、園児と高齢者の交流

(株)連空間設計 代表取締役 今村 敏雄

はじめに



今回ご紹介する事例は、本誌の2007年夏季号のイチ押し事例で、安城桜井駅周辺特定土地地区画整理事業における「住民参加からまちの運営へ」と題して紹介したまちづくりの一部続編になります。

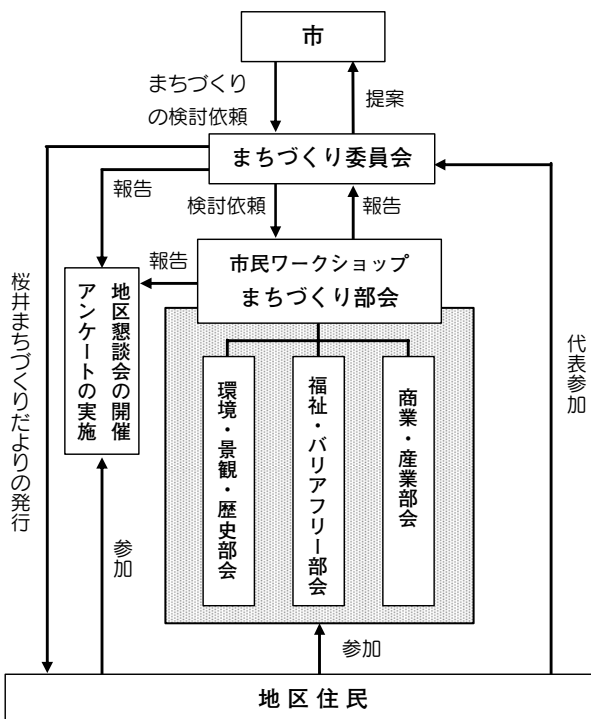
ご紹介してから3年が経ちましたが、区画整理事業は順調に進み、まちはますます熟成する一方、住民のまちづくり提案や活性化への取り組みも多くの実績を積んできました。その実績の一つに、保育園と高齢者福祉センター、障害者デイサービスセンターの三つの施設の合築があります。まずはその経緯をかいつまんで紹介します。

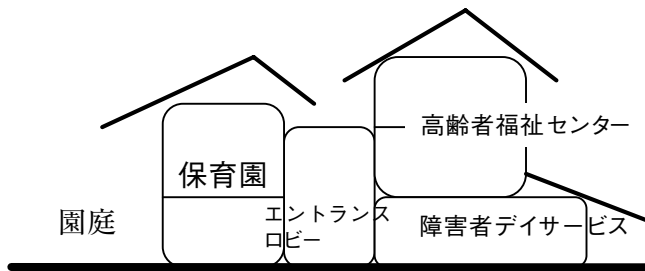
本土地区画整理事業が行われている安城市は、愛知県ほぼ中央に位置し、矢作川水系の平坦な地形

に灌漑設備としての明治用水、それに加え多角的農業経営の導入などで、かつては「日本のデンマーク」とよばれた農業の先進地でした。しかしながら隣接する豊田市、刈谷市のトヨタ系企業の進展により市内にもトヨタ系企業の立地が進み、企業社員の住宅需要に応えるように農地の宅地化も進んできました。

本事業もその一環で、平成10年に都市計画決定し事業に入ったものです。私がこの事業に係るようになった経緯は、平成9年から当支援センターのアドバイザー派遣がきっかけで、期間も今年で13年目になります。私の役割は、地権者を始めとする住民の方々のまちづくりに対する要望をまとめ、市に提案できるようにしていくこと。そのため、まちづくり委員会の下に三つの専門部会（環境・景観・歴史部会、福祉・バリアフリー部会、商業・産業部会）を設けました。

この中の福祉・バリアフリー部会の検討テーマは、





館を利用する人が皆中央のエントランスを利用することで自然な交流が期待できます。

公共施設のバリアフリー化（ユニバーサルデザイン）提案と桜井駅前に予定されていた保育園、高齢者福祉施設、障害者サービス施設の計画検討でした。

市の当初の計画では、保育園は別の建物として建設する予定だったのですが、住民側から高齢者と園児のふれあいが双方にとって有意義ではないかという意見が出され、類似の建物の見学などする中で両者を合体して建設することになりました。また、駅前という人が集まりやすい立地条件であることから、「福祉」という視点に「交流」という視点も加え、誰もが利用できるエントランスを設けることも提案し、実現することができました。オープニングセレモニーも平成20年3月、部会の自主運営でそこに市が出席する形で行われました。

現在、福祉・バリアフリー部会は当福祉センターの運営会と名称を変え、館の交流事業の運営にあっています。

園児と高齢者の交流（苗植え）

建物の企画段階から福祉センターの利用者同士の交流や、地域の人たちの交流場面をさまざま想定し

てきましたが、竣工間もない平成20年5月、園児と館を利用する高齢者、障がいのある人との初の交流がはじまりました。保育園の園庭にある菜園に、さつまいもやなす、ピーマン、ミニトマトなどの苗と一緒に植えたのです。これは計画段階に保育園の園長先生から、保育士さんは野菜を育てる経験がないので農家の皆さんに協力していただきたい、という要望があったことがきっかけとなっています。

桜井福祉センターだよりを見ていただくとその時の様子がよくわかりますが、園長先生によると、農家の人に保育園にわざわざ来ていただく場合は誰に声をかけるのか、お礼はどうするかなど準備に気を配らなくてはなりません、一つの建物を利用している方々ならお互い負担もなく、自然な段取りで行えるということでした。

園児と高齢者の交流（収穫と食事会）

苗植えから3か月後の8月、福祉センターを利用している皆さんが保育園に集まって野菜を収穫。その野菜を使って餃子ピザを園児と一緒に作り、味わいました。

2008.5.8
晴天、さくら保育園

桜井福祉センターだより

さくら保育園との交流



5月8日 さくら保育園との初の交流事業として、野菜づくりが行われました。さくら保育園の園児のみなさんと一緒に、桜井福祉センターの利用者さん、地域活動支援センター（身障デイ）の利用者さんも協力して野菜の苗を植えました。



福祉センターの利用者さんは、さすが人生の大先輩。野菜作りはおてのもの。

畝づくりから植える間隔、肥料のことなど、細かく教えていただき、子どもだけでなく、職員や保育園の先生も勉強させていただきました。

子どもたちは、おじいちゃん、おばあちゃんにやさしく教えてもらいながら苗を植えたり、水をあげたり、大忙し。これから毎日大切に育てていくことを約束してくれました。

地域活動支援センター（身障デイ）の利用者さんには天気のいい中、外での交流を楽しんでいただきました。子どもたちを見ているだけでみなさん、にっこり。

お手伝いいただいた皆様、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



桜井福祉センターには、電位治療器がある機能回復訓練室、お風呂、囲碁将棋、和室の休憩コーナーがあり、市内在住の60歳以上の方、障がいをお持ちの方ならどなたでもご利用になれます。ぜひ、お越しください。お待ちしております。

《 お問い合わせ先 桜井福祉センター 電話 99-7365 》

桜井福祉センターだより

野菜を植え、育てるのは多くの園児たちにとって初めての体験でした。園庭の一角にあるので毎日世話をしながら成長を見ることができます。ここでは自然とのふれあいだけでなく、地域のお年寄りとの交流も自然にでき、初めての交流事業は園児たちにとって豊かな体験となったことでしょう。また、お年寄りにとっても日常的に子供たちの元気な声や行

動に触れることができ、日常の中のうるおいとなったと思います。

市民参加のあり方

安城桜井駅周辺特定土地区画整理事業の事業主体は安城市ですが、前にも述べたように事業の初期段



桜井福祉センターだより

8月19日 さくら保育園との2度目の交流事業として、収穫祭 餃子ピザパーティーが行われました。

5月に保育園、福祉センター、身障テイの皆さんで植えた野菜を使って、さくら保育園の年長園児の皆さんと桜井福祉センターの利用者さんとで餃子ピザを作っておいしくいただきました。



まずは保育園でとれたナス、ミニトマトを切って炒めます。「トマトのいいにおいがするね。」と園児さん。

園児さんが包丁で丁寧にハムを切りました。「いつもお家で手伝っているの？上手だね。」利用者さんと園児さんの会話も弾みます。

餃子の皮の上にピザソースを塗り、ツナ、コーン、ハム、チーズ、そして炒めた野菜をのせてホットプレートで焼くこと10分弱。こんがりおいしそうな餃子ピザができました。そして「いただきま〜す。」園児さんも利用者さんも大満足。「簡単だから今度お家で作ってみようかしら。」

食事後の園児さんからの質問コーナーでは、「おじいちゃん、おばあちゃんが小さい頃は何かをして遊んでいたの？」などたくさんの質問がでました。

お忙しいところご参加いただきました皆さまありがとうございました。次回の交流事業もお楽しみに。



9月16日には、敬老週間にあわせ、園児さんがエントランスホールで歌や手遊びを披露してくれました。福祉センター利用者さん、身障テイの利用者さんも一緒に手遊びをして楽しみました。



桜井福祉センターには、電位治療器がある機能回復訓練室、お風呂、囲碁将棋、和室の休憩コーナーがあり、市内在住の60歳以上の方、障がいをお持ちの方ならどなたでもご利用になれます。

階から計画への市民参加を行ってきました。そしてまちが熟成化してきた段階では、まちの運営に市民が積極的に参加しています。それは、三つの各部会の検討テーマに沿った活動で、商業・産業部会は、商店の活性化をめざしたスタンプウォークラリーを年行事として定例化しました。環境・景観・歴史部会は、環境にやさしい住まいづくりの普及にあたり、区画整理事業の仮移転住宅を環境共生型住宅にして

体験できるようにする提案や（現在は建設中）ごみ減量推進を目指してコンポストの普及活動など計画しています。

単にハードな街や建物を造るだけでなく、そこに住まう住民のコミュニティーの醸成を図って初めてまちづくりといえます。この区画整理はハード、ソフト両面で行ってきた一つのモデルとして評価できると思います。